

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「グループホーム白松」の理念を掲示し職員の理解を深めている。	前回、理念が長い文章で「近づかないと読めない」との指摘があった為、分かりやすい文章(箇条書)に変えました。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念に沿って居住者の方が一日楽しく過ごせる様に職員に徹底しています。	新しく入居された方によりホーム内が明るい雰囲気になりました。レクリエーション担当者を中心に日々話し合いの場を持っています。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	入居者御家族に見やすい位置に「運営理念」を掲げています。又、パンフレットを作り、区に回覧をお願いしています。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	整容、美容は近隣に出向き、又はGH内に来て頂いています。本読みのボランティアさんも来訪しています。近隣の挨拶も日常的に出来ています。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小・中・高の学生の受け入れ、施設主催のクリスマス、納涼祭等には、必ず地域の参加があります。納涼祭は、町を上げての参加になっています。	地域の老人会、民謡の会とGH、1Fホール内で一緒に歌ったり、踊ったりと交流を持っています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	キャラバンメイト養成講座の講師として市の地域包括支援センターの協力のもと実施しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の評価を参考に「グループホーム白松」の改善に取り組んでいます。		前回の自己評価は管理者が一人で作成した為、今年度は全員に配布し、記入をしてもらい、個々の意見をまとめました。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	GH内での過ごし方、様子をビデオに撮り報告、話し合いの場を持っている。(家族了解のもと)		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センター長、区長、白松役職者との話し合いの場を持ち、意見交換会を開いています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修に参加しています。昨年度は活用をしていた居住者の方がいたのですが、他施設へ移動をされています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、研修報告、資料の回覧をしています。又、理解確認印を押すことになっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書、重要事項説明書等で、十分な説明をしています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>居住者(入居者)家族意見交換での要望、苦情等について全社員に報告し、その都度改善をしています。また、外部評価の結果をコピーし、居住者御家族へ郵送し、報告をしています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、新聞(グループホーム白松)を発行しています。一ヶ月のバイタルチェックの記録と、その月に受診した内容、結果の記録を御家族様に送っています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>居住者(入居者)家族意見交換での要望、苦情等について全社員に報告し、その都度改善をしています。毎週、土日は御家族様の来訪が多く、居住者、御家族職員との話し合いが多いです。現状報告については、随時行なっています。</p>	<p>意見箱を設置してあります。意見箱を利用するよりも職員との話し合いの方が多くいます。御家族との関係はとても良いです。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全員出社のカンファレンスは年4～5回ですが、小グループでのカンファレンスは随時行い、職員の意見を吸い上げています。</p>	<p>気づき内容は、申し送りノートにて、回覧したり書物にして、手渡し実施しています。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況の変化時には、ホーム近隣の職員が多く、すぐに対応が出来る、また、本館職員がいつでも対応出来る様、ルール化しています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>本館との交流が多く(催し物は合同)職員との接する機会が多く、顔馴染です。本館職員の研修(認知症対応)も行なっています。</p>	<p>小・中の交流会、本館内でのコーラス、フラダンスに参加し、一緒に楽しんだりしていますので、本館職員はGH居住者とは、顔馴染になっています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉研修センターからの研修には、職員が交代で受講している。又、白松の郷との合同社内研修には、職員全員が参加している。(3日間をかけて研修が行なわれる)		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に出席し、情報交換しています。又、同業者との相談事や情報交換も、電話やメール等で行なっています。		研修時には、他施設の運営内容、記録用紙等の情報交換はしていますが、施設訪問までには達していませんが、他の方の見学来訪はあります。最近では竣工式の招待等に参加をさせて頂いています。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ストレスマネジメント、カウンセリングの研修に参加しています。職員に対しては、施設長を交え、昼食会を開いたり、時にはお茶タイムを利用し、世間話をしたりとしています。		今後の資格等の相談や子供、孫の話等、話題は豊富と思っています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修に交代で参加すると共に、GH内での役割を持ち、努力、実績を職員全員で喜び、評価をしています。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	契約時は、御家族との話し合いの場を多くとっています。又、本人様からは一対一にて、職員とゆっくりと時間をかけ要望を聞いています。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学時から御家族、施設長、管理者、ケアマネジャーと話し合いの場を多くとっています。開設五年ですが、ご家族の協力のもと信頼関係は良いと感じています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時に相談された事柄については、積極的に対応し、出来るだけ沿う様になっています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居、短期滞在をする取り組みを実施し、ホーム内の雰囲気を感じて頂き、家族と共に食事をして頂く時間も作っています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員と共に家庭菜園を行ったり収穫した野菜を洗ったりと喜びを共有しています。又、朝の掃除も一緒に行なっています。時には、職員の肩にシップを貼ってくれたり肩をたたくくれたりと助けられています。		きゅうり、なす、ほうれん草、春菊等、一緒に摘みとりをしています。
28	本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族、本人様の立場を考え、両立の出来る対応をしています。常に連絡をとり合い、信頼関係は良いと感じています。又、病院への付添等もお願いをしています。		若夫婦と本人様との話のくい違い等、ご家族の説明を分かりやすく話しをしたり、相談役となったりと一緒に考えたりしています。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	連休や彼岸、盆、お正月と自宅へ泊まりに帰宅したり、息子さんと外食をされたりと良い関係が保てる様に支援をさせて頂いています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の誕生会にはご家族の参加があります。また、白松神社へのお参りに行くことで神仏への関心が保たれ、故郷の話や写真、なつかしの歌など記憶を思い出しています。		馴染の方への手紙の代筆など支援をさせて頂いています。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に洗濯物たたみをしたり、歌を唄ったりしています。時には、上手な声掛けにより席を変え、さまざまな方と関わりがもてる様になっています。職員が間に入り、共通の話題の糸口を提供しています。		歩行見守りの方に対し、職員の気づかないところで、声掛けや、立ち上がる時には職員に教えてくれたりと、助け合いが出来ています。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	死亡された方、移動された方に対し、6ヶ月間はGH新聞を送らせて頂く、その後も、布(タオル類、お尻拭き用)くだもの等が送られて来たり、相談メールが来たりしています。時には、GHへ寄って下さった時もありました。		
<p><b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b></p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>				
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	時々、居室に伺い、ゆっくりと話を聞く時間を持ち、ご本人の意向を確認しています。ご本人からの意向が困難な場合は御家族に伺いながら本人本位となるようにしています。		
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	ご家族や居室のケアマネジャーから情報の提供を受けたり、御本人の話の中から聞き取るようにしています。		
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	職員全員で生活記録、受診記録、申し送り等を記入することにより、一人一人の状態を絶えず把握するようにしています。		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>				
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	約6ヶ月毎に御家族と意見交換会を持つとともに必要に応じて連絡をしています。		
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	定期的にモニタリングを行い、状況の変化が生じた時はケアプランの変更を行なっています。		御家族様にも連絡をとっています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルや申し送り簿に、毎日の行動や気づき変化を記入し、全職員で確認しています。		確認印を押す様指導をしています。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人の希望によりご家族と外泊、外出の働きかけをしています。又、本館の協力のもと多種多様な行事、レクレーションを実施しています。		身体変化のあった時には、本館の福祉用具(車椅子、介護用ベッド)を用いています。又、入浴の出来ない方に対し、機械浴等も行なっています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	行事ごとには招待をし、馴染の関係にあります。勉強会を開き、指導をして頂く機会を作っています。		警察、消防署等への四季折々の挨拶を行い、日頃の協力を依頼しています。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居時には在宅のケアマネジャーに情報提供をして頂いていますが、現在のところ、本館の支援があるため他サービスの利用はしていません。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	本年度から運営推進会議を実施し、地域包括支援センター職員に参加して頂いています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際、御家族からの了承を得て、協力医療機関に変更される入居者が多く、毎週水曜日に本館医務室に於いて回診を受けています。又、毎週、月、金には訪問歯科の診療も受ける事が出来ます。		毎週水曜日(八街総合病院) 毎週月曜日(八街総合病院訪問歯科) 金、佐倉デジタルクリニック

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の嘱託医が入居時から診察して頂いている為、相談しやすい。また、本人希望や症状によって成田日赤病院の専門医に受診しています。		症状により協力医療機関だけでなく、専門医に受診をしています(皮膚科、歯科)
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	本館のナースが入居者の健康状態を把握しています。状態に変化があった時は、その都度対応をしてもらっています。		日に一度は必ず居住者の方の状態を見に来ています。状態変化の場合は随時。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院に入院した場合は、本館医務室のヘルパーが毎日病院へ行き、見舞いをすると共に病院看護師の話をGHに伝えてもらっている。		GHの職員も定期的に見舞に行き、病院看護師からの症状を聞いている。医師と家族との話し合いの場にも参加し、フロアー長とも顔馴染になっている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアは、今のGHでは出来ないもので、状況の変化に応じ提携している特養等の話をご家族にしています。		終末期のあり方については、早期の段階から御家族より相談を受ける場合があります。医師とご家族との話し合いの機会を持ち、立ち合っています。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアは、今のGHでは出来ないもので、状況の変化に応じ提携している特養等の話をご家族にしています。		同上
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	GHから他施設に変わる時は、ご家族ともよく話し合いをしています(GHと他施設(特養)を同時に申し込んだ方がありました)		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p><b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個々の生活歴を全職員が把握し、命令調な言い方や入居者の尊厳を傷つける様な言葉かけをしないことで徹底しています。又、個人情報、引き出しに保管し、重要書類は、本館で管理しています。</p>	<p>個人情報保管されている場所に施錠をする。</p>
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個々の趣味、嗜好を把握した上で、希望、要望を考慮し、その方に沿った言葉かけを行い、自己決定の出来る雰囲気を作り支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>個々の体調に合わせてその日の気分を大切に、希望、要望に沿う支援をしています。</p>	<p>居室にて昼眠をしたり、本を読んだり、御家族に手紙を書いたり自分のペースが出来上がっています。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>ADLの低下と交通量の多い道路の為、当所は、歩いて行っていたのですが、最近では隣りの美容室の先生が来訪しカットをしています。</p>	<p>隣の先生なので、顔馴染もあり、話題が豊富で楽しんでいます。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>ホーム内の菜園でとれた野菜を洗ったり、根をとったりメニューを考える。盛り付け、食器洗い、米とぎ等、個々の残存機能をいかし、職員と共に準備、片づけを行なっています。</p>	<p>食事、お茶は居住者、職員と一緒にテーブルに付き、食べています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>たばこを吸う方は今のところ入居されていません。昔なつかしいおやつは、食材の買物をした時に居住者に選んで頂き用意しておく。</p>	<p>以前入居された方に喫煙者の方が居られその時は本館の喫煙室で楽しんで頂きました。御家族が外食に誘い、親子でビールを飲んだり食べたり楽しんでいます。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ADLの低下に伴い、一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けをし、トイレ誘導を行なっています。		排便、排尿チェック表を作成し、個々の排泄パターンを把握しています。オムツ使用の必要になった方に対し、全職員で話し合いの場を持ちあらゆる面の様子観察を行なっています。業者から試供品を頂き検討をする。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	二日に一回の入浴日を設けていますが、変更は自由になっています。一人で入浴の出来る方については、見守りをし、介助の必要な方に対しては職員がお手伝いをします。		入浴前には、全員のバイタルチェックを行ない健康状態を把握し、状況に応じてナースと相談し、入浴を中止する時もあります。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個々に合ったペースで支援をしています。一応21:00消灯にしていますが、起きている方(おもしろいテレビ)もあり、その方のペース、リズムに合わせています。		眠れない原因を観察し、対応をしています。眠剤を必要とされていた方も、内服せず眠っています。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本館のサークルに参加(フラダンス、コーラス)イベント時には、長年習っていた日本舞踊を披露したり、御家族と一緒にお酒を飲まれる方もいます。		個々の生活歴を知り、その方にあった役割を持ち自信と楽しみにつながる様に支援をしています。農家 菜園、草とり、日本舞踊、合唱団等…三味線、貼り絵。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物は自由に出掛ける事が出来ますが、金銭管理については一括事務所(本館)で行なっています。		欲しいものは、職員と一緒に出向き、立て替えをしています。(家族了解です) 2名の方は自己管理で所持しています。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、月1回のドライブと、その日の天候、体調により出掛けています。食材の買物時には、順番に職員と一緒に出掛けます。		ADL、体調、気分を知り、その方に合った散歩コースを選び芝生の中(園庭)の休憩所でお茶をしたり、歌を唄ったりしています。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一回のドライブを実施しています。又、御家族との交流の機会を設け、泊まりに行く方もいます。(お正月、彼岸、盆等)		月一回のドライブは季節に合わせ、また、目的地までの時間等を検討し、疲れのない範囲で行なっています。回転寿司・梅見・初詣。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族から宅急便が届いた時には、必ず本人が電話をし、届いたことを報告している。又、年賀状や手紙の宛名の代筆等を行なっている。		ADLの低下により、深夜帯については、「今日はご家族様はもう休まれたので、又、明日にしましょう」と話しを一緒にしながら落ちついて頂くこともある。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも、気軽に訪問が出来る様に玄関は(1F、2F)オープンにしています。		1F応接間は開放し、居住者と一緒に食事をしたり、話をしたりと楽しんで頂いています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、研修報告書と共に、資料等回覧し、職員の知識向上をはかっています。		今現在、拘束(身体)の必要な方はいませんが、布団ずれ落ち防止の為に柵は一点、使用しています。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	2F自動ドア付近では危険防止の為、チャイムが鳴る様になって居り、ご家族了解のもと施錠をしている。入居者希望により、いつでも出入りは自由だが職員と一緒にです。		ホームの前は交通量が激しく、ご家族からの要望もあり、安全を最優先しています。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常に於いて気配り、目配りを忘れない様にし、日中は居住者の方の動きの把握をしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	手作業(針仕事、ハサミ使用)等に使用する時は、職員と共に行っています。保管については、職員で管理しています。農業の(カマ、クワ)使用も職員と一緒にです。		ご家族了解のもと、ご本人で管理されている方もいます。針仕事に関しては、職員に頼みにくる方もいます。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日常に於いて常に目配り、気働きを忘れない様にしています。薬は職員管理、食事については、その方に沿った大きさへの配慮。火災、震災の勉強会に参加。		毎月19日は「防災の日」と決めてあり、消防署、防災会社指導のもと勉強、訓練を実施しています。一人一人消火器のとり扱い方の指導等。今後は一人一人の誘導も検討中です。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	看護師指導のもと吸引の勉強会を行なうと共にマニュアルを作成しています。緊急の時には、看護師への連絡網、グループホームの連絡網もあります。		AED(自動対外式除細動器)使用方法の講習会を定期的に行う。(社内勉強会予定)
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月19日を「防災の日」と決め、居住者、職員と共に消防署、佐倉防災等の勉強会に参加、器具、消火器の使い方訓練を受けている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	状況の変化もたえずご家族と連絡をとり報告をしています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝9時のバイタルチェックを行う。又入浴日は13:30に再度バイタルチェックを行ない、体調の変化、異変については、申し送りノート、口頭で周知し、共有をしています。看護師との連絡もし、情報交換、相談もしています。		毎朝9時バイタルチェック、入浴日、13:30バイタルチェック 毎週1回体重測定、酸素ホワード測定 出勤時、申し送りノートにて、居住者の状態を確認し業務に入る。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の経過記録と処方せんは確認し服薬は職員が管理しています。服薬が変わった時には申し合わせをし、様子観察を行っています。		服薬が変わった時、又は処方せんと薬とが違っている時は、病院に連絡をし、説明を受けに行く時もあり、電話で確認をする時もあります。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を作成し個々のリズムを把握しています。ホーム内での食事メニューも工夫しています。		根菜、野菜を多く摂れる様に工夫をしています。又、数日間排便のない方は看護師に相談をし、対応をしています。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは習慣になっています。異常(歯茎の腫、義歯、噛み合わせ)のあった時は、訪問歯科を受診しています。		毎週月曜日 八街総合病院歯科 毎週金曜日 佐倉デジタルクリニック 来訪してくれています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量は個々に記録をしています。体調不良の場合は、その方の状態に合わせ別調理をしています。食材の野菜は作っているため、野菜の豊富なメニューになっています。		ゼリー、かんてん類は、手作りが多いです。水分摂取量の少ない方に対し、コーヒー、ココア、サイダー等と、好みの物を提供しています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策研修に参加。御家族の同意を得て、インフルエンザの接種を行なっています。ノロウイルス対策その他の予防の為、手洗い、消毒を行なっています。		外出後は手洗い、うがい、消毒は一年を通し励行をしています。手洗い消毒器を使用。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所、調理台、冷蔵庫、ガス台等を清潔にし、食器類は全て熱消毒をし、布巾で拭く事はしない。食材については買いだめをしない。又、賞味期限を把握しています。		食器乾燥機を使用。手洗い消毒器を使用。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には、季節に応じて鉢物を置き、ゲタ箱の上には、居住者手作りの物を飾ってあります。GH入口には手作りの表札があります。(3月おひな様、5月カブト等)		居住者て作りのものを展示する。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	オープンなリビングにて、調理をする音、煮物の匂いを感じ、生活の場、生活感を取り入れています。光については(太陽)居住者の方がカーテンを閉めたり開けたり自由に工夫をしています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間・廊下にソファを配置し、自由に使用しています。気の合った方の居室で仲良く話をしたりしています。廊下には思い出の写真を掲示することで、会話がはずんでいます。		時によりテーブルを移動したりしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使っていた馴染みの物を居室に持ち込んでいます。又、壁には家族の写真を飾ったり、手作りのものを飾ったり、個々に合った居室になっています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	冷暖房、換気扇の掃除は業者に依頼しています。温度調節は、こまめに確認し、個々に対応しています。暖房時は加湿器を設置し、温度を保っています。		温度計を設置してあります。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり(廊下、浴室、トイレ内、階段等)を設置。便座は高いもの、低いものを設置してあります。館内はバリアフリーとジュータン張りになっています。		一人ひとりの身体機能を知り、本館から介護用ベッドを運び使用しています。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の残存能力を把握し、その方に合った出来るお手伝いをして頂き自信を持って頂く、出来ない時にはさりげなくお手伝いをさせて頂き、自立支援を応援しています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには災害時を考え、物は置かないことにしています。菜園では季節の野菜を植えたり、収穫を楽しんでいます。		良い天気の日には、芝生の上で昼食をとったり歌を唄ったりと楽しんでいます。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・毎月1回のグループホーム白松独自の新聞を発行し、その月に行なわれた行事内容を職員のコメント及び居住者の日常生活の写真等を掲載し、各家族様に送付しています。又、毎朝と入浴時のバイタルチェック及びその月に受診した内容、結果の報告を新聞と同封しています。
- ・グループホーム白松農園で季節の野菜を作り、収穫の楽しみ、喜びを感じて頂いている。時には、一緒に草取りもしています。